

1級原計の1
2は裏面

第63回 簿記実務検定第1級試験問題

原価計算

(制限時間 1時間 30分)

1

- 次の取引の仕訳を示しなさい。
- 当月の素材の払出数量は、製造指図書#1に3,400個、製造指図書#2に2,800個、機械修理用として50個であったので、素材の消費高を計上した。ただし、消費単価の計算は総平均法による。
 素材の月初棚卸高 1,500個 @ ¥660 ¥990,000
 素材の当月仕入高 6,000個 " " ¥685 ¥4,110,000
 - 当月の賃金の消費高について、次の資料を得たので、予定消費高と実際消費高との差額を賃率差異勘定に振り替えた。ただし、消費資金勘定を設けている。
 予定消費高 ¥1,911,000 実際消費高 ¥1,862,000
 - 単純総合原価計算を採用している長崎製造株式会社は、月末に特許権使用料 ¥190,000 および工場の建物に対する保険料 ¥35,000 を消費高として計上した。
 - 工程別総合原価計算を採用している鹿児島工業製作所の第3工程（最終工程）において、製品の完成とともに副産物が発生した。ただし、第3工程の総合原価は ¥6,000,000 であり、そのうち副産物の評価額は ¥780,000 であった。
 - 等級別総合原価計算を採用している沖縄製作所において、1級製品300個と2級製品400個が完成した。ただし、この完成品の総合原価は ¥3,485,000 であり、等級係数は次の各製品/個あたりの重量を基準としている。
 1級製品 350g 2級製品 250g
 - 工場会計が独立している香川工業株式会社の本社は、掛けで仕入れた素材を工場に送付していたが、本日、工場から不良品/5個 @ ¥/4,000 を直接本社仕入先に返品したとの通知を受けた。（本社の仕訳）

2

- 次の各問いに答えなさい。
- 次の文の [] のなかに、下記の語群のなかから、もっとも適当なものを選び、その番号を記入しなさい。
 標準原価計算は、一定の品質を下げずに原価の水準を引き下げ、それを維持していく [] を目的としている。このため、あらかじめ科学的・統計的な分析・調査にもとづいて原価の達成目標を設定し、これによって算出された [] と実際原価を比較し、その差額を分析する。

- 利益計画
 - 標準原価
 - 売上原価
 - 原価管理
 - 総原価
- 高知製作所における下記の勘定記録と資料から、製造原価報告書および損益計算書に記載する次の金額を求めなさい。ただし、会計期間は原価計算期間と一致しているものとする。なお、製造間接費配賦差異は売上原価に振り替える。

前期繰越材料金	420,000	製成品	670,000	工場消耗品		製	
素賃	3,850,000	次期繰越		賃金	1,405,000	造	
外注加工賃	650,000			給料	135,000	間	
製造間接費				退職給付費用	158,000	接	
				電力料	290,000	作	
				減価償却費		業	
				棚卸減耗費		時	

- 下記の資料から、直接原価計算をおこなった場合の次の金額を求めなさい。
- | | | | | | |
|----------|------------|--------------|---------------|---------------|-------------|
| ① 売上高 | ¥3,000,000 | 期末帳簿棚卸高 | 1,000個 @ ¥200 | 期末实地棚卸高 | 900個 @ ¥200 |
| ② 変動売上原価 | ¥1,560,000 | 期首棚卸高 | ¥70,000 | 当期仕入高 | ¥450,000 |
| ③ 変動販売費 | ¥240,000 | 実際平均賃率 | @ ¥800 | 直接作業時間 | 5,000時間 |
| ④ 固定販売費 | ¥800,000 | 直接作業時間/時間につき | ¥500 | の予定配賦率を用いている。 | |
| ⑤ 販売単価 | ¥4,000 | 期首棚卸高 | ¥820,000 | 期末棚卸高 | ¥780,000 |

① 売上高	¥3,000,000
② 変動売上原価	¥1,560,000
③ 変動販売費	¥240,000
④ 固定販売費	¥800,000
⑤ 販売単価	¥4,000

3

- 宮崎製作所は、個別原価計算を採用し、A製品（製造指図書#1）とB製品（製造指図書#2）を製造している。下記の資料によって、次の各問いに答えなさい。
- 製造部門費を予定配賦したときの仕訳を示しなさい。
 - 部門費振替表を直接配賦法によって完成しなさい。
 - 製造部門費配賦差異勘定を完成しなさい。
 - A製品（製造指図書#1）の原価計算表を完成しなさい。

資料

a. 年間製造間接費予定額・年間予定直接作業時間	第1製造部門	第2製造部門
	年間製造間接費予定額 ¥1,575,000	年間製造間接費予定額 ¥7,525,000
b. 製造部門の当月機械運転時間および当月直接作業時間	第1製造部門	第2製造部門
	年間予定機械運転時間 21,000時間	年間予定機械運転時間 21,500時間

c. 補助部門費の配賦基準	配賦基準	第1製造部門	第2製造部門
	動力部門費 kW数×運転時間数	12kW×1,700時間	10kW×160時間
d. 完成品数量	修繕部門費	繕回数	7回
	工場事務部門費	従業員数	4人
	A製品（製造指図書#1）	90個	

1 級原計の2

1 は 表 面

第63回 簿記実務検定第1級試験問題 原価計算 (制限時間 1時間 30分)

4 福岡工業株式会社は、組別総合原価計算を採用し、A組・B組の2種類の製品を製造している。下記の資料によって、次の各問いに答えなさい。

- (1) /月中の取引の仕訳を示しなさい。
 - (2) 組別総合原価計算表を完成しなさい。
 - (3) /月末の貸金未払高を求めなさい。
- ただし、i 前月繰越高は、次のとおりである。

素材	5,800個	@ ¥525	¥3,045,000
工場消耗品	2,200 "	" " 80	¥176,000
仕掛品	A 組	¥579,000 (うち、素材費 ¥315,000 加工費 ¥264,000)	
	B 組	¥1,032,000 (うち、素材費 ¥630,000 加工費 ¥402,000)	
製品	A 組	400個 @ ¥2,800	¥1,120,000
	B 組	1,200 " " " 1,150	¥1,380,000
貸金 (未払高)			¥947,000

- ii 素材の消費高の計算は先入先出法により、工場消耗品の消費数量の計算は棚卸計算法によって行っている。
- iii 貸金の消費高の計算には、実際平均賃率を用いている。なお、実際平均賃率は次の式によって計算する。

$$\text{実際平均賃率 (/時間あたり)} = \frac{\text{当月の実際賃金総額}}{\text{当月の実際総作業時間}}$$

- iv 素材は製造着手のときにすべて投入され、加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。
- v 月末仕掛品原価の計算は平均法による。
- vi 組間接費勘定を設けている。

取 引

/月 9日 素材4,600個をA組のために消費した。
 /0日 素材および工場消耗品を次のとおり買い入れ、代金は掛けとした。
 素材 7,800個 @ ¥535 ¥4,173,000
 工場消耗品 8,400 " " " 80 ¥672,000
 /5日 素材3,600個をB組のために消費した。
 /9日 製造経費を次のとおり小切手を振り出して支払った。
 外注加工賃 ¥269,000 電力料 ¥205,000
 保険料 ¥372,000 雑費 ¥34,000
 25日 貸金を次のとおり小切手を振り出して支払った。
 貸金総額 ¥4,667,000

うち、控除額 所得 税 ¥420,000 健康保険料 ¥187,000
 3/日 ① 工場消耗品の月末棚卸数量は2,400個であった。よって、消費高を計上した。(組間接費)
 ② 当月の実際賃金総額は ¥4,655,000 であり、当月の作業時間は次のとおりであった。よって、実際平均賃率を用いて消費高を計上した。

- | | | | | | |
|-----|---------|-----|---------|------|-------|
| A 組 | 2,700時間 | B 組 | 1,800時間 | 間接作業 | 400時間 |
|-----|---------|-----|---------|------|-------|
- ③ 健康保険料の事業主負担分 ¥187,000 を計上した。
 - ④ 当月の製造経費消費高を計上した。

組間接費	外注加工賃	A 組	¥160,000	B 組	¥104,000
	電力料		¥207,000	保険料	¥62,000
	減価償却費		¥370,000	雑費	¥38,000
 - ⑤ 組間接費 ¥1,900,000 を、次の割合で配賦した。

A 組	65%	B 組	35%
-----	-----	-----	-----
 - ⑥ 当月の製造数量について、次の資料を得た。

	完成品数量	月 末 仕 掛 品 数 量
A 組	2,100個	500個 (仕上り程度 60%)
B 組	3,800個	1,000個 (仕上り程度 50%)

- ⑦ 当月の製品の販売について次の資料を得たので、売上高および売上原価を計上した。

売上高 (掛け)	A 組	¥8,430,000	B 組	¥6,480,000
売上製品原価	A 組	¥5,620,000	B 組	¥4,320,000

借		方		貸		方	
a							
b							
c							
d							
e							
f							

2 (1)

ア	イ	
---	---	--

2 (2)

a	当期材料費	b	当期労務費
c	当期製品製造原価	d	売上原価

3 (3)

a	貢献利益	b	目標営業利益600,000を達成するための売上高
---	------	---	--------------------------

3 (1)

借		方		貸		方	
---	--	---	--	---	--	---	--

2 (2) 直接配賦法 平成〇年々月分 部門費振替表

部門費	配賦基準	金額	製造部門		補助部門	
			第1部門	第2部門	動力部門	修繕部門
動力部門費	kWh数×運転時間数	1,907,000	882,000	468,000	275,000	165,000
修繕部門費	修繕回数					
工場事務部門費	従業員数					
配賦額合計						
製造部門費合計						

3 (3) 製造部門費配賦差異

前月繰越	5,000	()	()
()	()	次月繰越	()
()	()	()	()

4 (4) 製造指図書# / 原価計算表

直接材料費	直接労務費	製造時間		接費額	集計金額	
		部門	時間		配賦率	金額
1,515,000		第1			直接材料費	
		第2			直接労務費	
					製造間接費	
					製造原価	
					完成品数量	90個
					製品単価	

試験場校	受験番号
------	------

原計の1得点

借方		貸方	
1/月 9日			
10日			
15日			
19日			
25日			
①			
②			
③			
④			
3/日			
⑤			
⑥			
⑦			

(2) 組別総合原価計算表
 平成〇年/月分

摘要	A 組	B 組
組 直 接 費		
加 素 材 工 費		
組 間 接 費		
加 造 工 費		
当 月 月 初 仕 掛 品 原 価	315,000	630,000
加 素 材 工 費	264,000	402,000
計		
月末仕掛品原価		530,000
加 素 材 工 費	528,000	
完 成 品 原 価		
完 成 品 数	2,100個	
製 品 単 価		
	¥	¥
		3,800個

(3) /月末の貸金未払高 ¥

試験場校	受験番号
------	------

原計の2得点

総得点

借		方		貸		方	
a	製造間接費	4,216,000	34,000	素材	4,250,000		
b	消費貸金	49,000		貸率差異	49,000		
c	製造	225,000		特許権使用料 保険料	190,000 35,000		
d	製品 副産物	5,220,000 780,000		第3工程製造	6,000,000		
e	1級製品 2級製品	1,785,000 1,700,000		製造	3,485,000		
f	買掛金	210,000		工場	210,000		

2 (1) ア 4 1 2

(2)	a	当期材料費	4,285,000	b	当期労務費	5,860,000
(3)	c	当期製品製造原価	11,000,000	d	売上原価	11,053,000
	a	貢献利益	1,200,000	b	目標営業利益600,000を達成するための売上高	3,500,000

借		方		貸		方	
(1)	製造	1,905,000		第1製造部門費	1,275,000		
(3)				第2製造部門費	630,000		

(2) 直接配賦法 平成〇年々月分 部門費振替表

部門費	配賦基準	金額	製造部門		補助部門	工場事務部門
			第1部門	第2部門		
部門費合計		1,907,000	882,000	468,000	275,000	117,000
動力部門費	kW数×運転時間数	275,000	255,000	20,000		
修繕部門費	修繕回数	165,000	105,000	60,000		
工場事務部門費	従業員数	117,000	36,000	81,000		
配賦額合計		557,000	396,000	161,000		
製造部門費合計		1,907,000	1,278,000	629,000		

(3) 前月繰越 (第1製造部門費) (5,000) (第2製造部門費) (1,000)
 (第1製造部門費) (3,000) (第2製造部門費) (7,000)
 (8,000) (8,000)

(4) 製造指図書# / 原価計算表

直接材料費	直接労務費	製造間接費			摘要	金額
		部門	時間	配賦率		
1,515,000	975,000	第1	800	750	直接材料費	1,515,000
		第2	1,200	350	直接労務費	975,000
					製造間接費	1,020,000
					製造原価	3,510,000
					完成品数量	90個
					完成品単価	39,000

4 (1)

		借方		貸方	
/月 9日	A 組 製造	2,415,000	素 材	2,415,000	
/10日	素工場消耗品	4,173,000 672,000	買 掛 金	4,845,000	
/5日	B 組 製造	1,914,000	素 材	1,914,000	
/9日	外電保雑	269,000 205,000 372,000 34,000	当 座 預 金	880,000	
25日	賃 金	4,667,000	所得税預り金 健康保険料預り金 当 座 預 金	420,000 187,000 4,060,000	
①	組 間 接 費	656,000	工 場 消 耗 品	656,000	
②	A B 組 組 間 接 製造費	2,565,000 1,710,000 380,000	賃 金	4,655,000	
③	組 間 接 費	187,000	健 康 保 險 料	187,000	
④	A B 組 組 間 接 製造費	160,000 104,000 677,000	外電保雑 注 加 工 力 力 費 險 險 却 価 償 却 費 費 費	264,000 207,000 62,000 370,000 38,000	
⑤	A B 組 組 間 接 製造	1,235,000 665,000	組 間 接 費	1,900,000	
⑥	A B 組 組 間 接 製造品	5,901,000 4,560,000	A B 組 組 間 接 製造	5,901,000 4,560,000	
⑦	売 上 掛 原 価	14,910,000 9,940,000	売 上 掛 原 価	14,910,000 5,620,000 4,320,000	
3/日					

(2)

組別総合原価計算表
 平成〇年/月分

摘 要		A 組	B 組
組 直 接 費	素 材 工 費	2,415,000	1,914,000
	加 工 費	2,725,000	1,814,000
組 間 接 費	工 費	1,235,000	665,000
当 月 製 造 費	用 費	6,375,000	4,393,000
月初仕掛品原価	加 工 費	315,000	630,000
	計	264,000	402,000
月末仕掛品原価	材 工 費	6,954,000	5,425,000
	加 工 費	525,000	530,000
完 成 品 原 価	数 量	5,280,000	335,000
完 成 品 単 価		5,901,000	4,560,000
製 品 単 価		2,100個	3,800個
		2,810	1,200

(3)

/月末の賃金未払高	935,000
-----------	---------